

平成24年4月25日 SANKEI EXPRESSより

中国の海洋覇権主義に警鐘 渡辺利夫氏「正論大賞」記念講演会

第27回「正論大賞」（フジサンケイグループ主催）を受賞した拓殖大学総長・学長、渡辺利夫氏の記念講演が24日、東京都千代田区のサンケイプラザホールで開かれた。渡辺氏は「迷走続く日本外交—近現代史の視点から」をテーマに講演、東シナ海や南シナ海で脅威を増している中国の海洋覇権主義に対し、

強い警鐘を鳴らした—写真。

渡辺氏はまず、2010年9月に尖閣諸島沖で起きた中国漁船衝突事件に言及しつつ、中国を「新しく登場した帝国主義国」と分析。この中国と共存するには「日米同盟の強化以外に選択肢はない」と訴えた。

さらに、日露戦争を勝利に導いた日英同盟の成立と消滅の経

緯を振り返り、「同盟関係は国家間に利益が共有されることによって初めて成り立つ」「現在の日米同盟の危機は日本の不作為によって生じている」と主張。日本政府の対応を厳しく批判し、日本政府がこのまま同盟国としての義務を果たさなければ、日本は没落の一途をたどることになるだろうと警告を発し

た。

開発経済学とアジア経済研究の権威である渡辺氏は、東アジア情勢を見据えた日本の進路について建設的な提言を行ってきたことが評価され、正論大賞を受賞した。会場にはこの日、600人の聴衆が訪れ、渡辺氏の力強い主張に盛んに拍手を送っていた。

